

## Saluton SESanoj

今土曜会ではユリオ・バギーが書いた *Sur sanga tero* を読んでいます。物語は主人公バルディが第一次大戦後の帝政ロシアの政治が揺れ動く中、ラーゲリでの悲惨な模様を描いたものだ。恋あり、荒れ狂うコサクあり、民衆との交流ありで波乱万丈とても面白い。UEA の機関誌 "Esperanto" 10 月号にこのバギーに Esperanto を習ったという人が出ている。Georgo Nanovfszky さんだ。日本からも堀泰雄さんが共に長年に渡る Esperanto 普及活動の実績が評価され、UEA が賞と資格 (名誉会員) を与え、2 人の榮譽を讃えた記事です。

堀さんは前々回の HEL 大会で講演をしてもらったり、軽妙で蘊蓄のある話し振りは面白いばかりでなく、誰にも心引かれる力がある、堀さんならではの世界を持っている人だ。実績や人品骨柄は衆知のことと思うので Nanovfszky さんの記事を要約する形で紹介する。彼は 1942 年生まれ。バギーにエスペラントを学んだ。彼は、多くの著作や翻訳を手がけ出版した。1963 年から 5 年間モスクワの "火華エスペラント会" に所属、ブダベスト大学で言語学の博士号を取得している。1992 年から 6 年間モスクワのハンガリー大使として、モスクワと全国的なエスペラントの振興を計った。1996 年ロシア学士院から政治学の博士号を受けた。1998 年から 8 年間ハンガリーエスペラント協会の会長の任に当たり、UEA の委員も務めた。アジアでは 2002 年シンガポールの大使として地方会を組織して、エスペラントの活性化を計った。2007 年以来ハンガリーエスペラント協会の名誉会長である。70 歳になるまでに言語学と政治学の博士号を取り、二つの大学の教授をし、二つの国で大使を努め、雑誌の編集長もやり、またジュネーブでは UNCTAD の職員もしたスーパーマンだ。ユリオバギーの名が世界に知れ渡っているのはバギー本人の才能もさりながら、こんな素晴らしい後継者を育てたからかもしれない。